

**日本銀行旧小樽支店金融資料館  
来館者数が八〇万人を突破！**

▼今年で開館八周年を迎えた日本銀行旧小樽支店金融資料館では、去る五月十日、八〇万人目のお客様をお迎えすることができました。

八〇万人目の座を射止めたのは、道内の滝川市から自主研修のために来館された中学生の五人グループで、代表である班長の大島奈美さんに認定証と記念品を贈呈させていただきました。

五人とも驚いた様子でしたが、「わたしたちが八〇万人目になるとは思ってもみませんでした。とても嬉しいです。お金のことがよく分かって、大変勉強になりました」との感想を述べられました。

金融資料館では、今後もご来館いただいた皆さまに親しんでいただけ



明治期を代表する重厚にして典雅なルネッサンス様式建築の日本銀行旧小樽支店金融資料館



「認定証」と「記念品」を手に札幌支店長と記念撮影

るよう心掛けていきたいと考えております。

小樽にお越しの際には、ぜひ、金融資料館へお立ち寄りください。多くの方々のご来館をお待ちしております。

△通常開館の時間▽

【開館時間】 九時三十分～十七時（入館は十六時三十分まで）

【休館日】 月曜日（ただし月曜日が祝日・振替休日のときは、その翌日以降の最初の平日）、年末年始（十二月三十一日～一月五日）、このほか、設備点検等のため臨時休館することがあります。

【入館料】 無料

【お問い合わせ先】

〇二三四—二二—二二二

※最新の開館情報は金融資料館HPをご覧ください。

<http://www3.boj.or.jp/otarum/>

**行楽の秋・学習の秋  
貨幣博物館で日本のお金の  
歴史にふれてみませんか？**

▼貨幣博物館の常設展「日本貨幣史」では、古代の和同開珎<sup>わどうかいえん</sup>、中世の渡来銭、江戸時代の大判・小判、明治初期の政府紙幣、現代の日本銀行券をはじめとする多彩な所蔵資料により、貨幣史上の重要な出来事をご紹介します。また大判などの重さを体験できるコーナーもご用意しています。

当館ホームページでは、展示を見て楽しく学べる小・中学生向けの学習シートを掲載していますので、ご来館の際にご活用ください。

※電力事情等により開館時間・休館日が変更になることがありますので、最新の開館情報は貨幣博物館HPをご覧ください。

<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>

△通常の開館時間▽

【開館時間】 九時三十分～十六時三十分



分（入館は十六時まで）

【休館日】 月曜日、祝日（ただし、土曜日・日曜日と重なる場合は開館）、年末年始（十二月二十九日～一月四日）、このほか、展示入れ替え等のため臨時休館することがあります。

【入館料】 無料

【お問い合わせ先】

〇三—三三七—三〇三七

## 「にちぎん体験2011」のご案内

▼日本銀行本店では、十月三十日(日)～十一月四日(金)(三日(祝)を除く)の期間、「にちぎん体験2011」と題して、休日日本見学ツアー・市民講座・企画展を開催します。ぜひご来場ください。

①休日日本見学ツアー(十月三十日(日)、要予約)・・・通常平日のみに実施しているツアーを休日に開催します。重要文化財に指定されている本店本館の建物内部や旧地下金庫をご案内します。

②市民講座(十月三十日(日)～十一月四日(金)(三日(祝)を除く)、要予約)・・・日本銀行の役割や日銀本店の歴史、お金をめぐる話題などをテーマに、日銀職員が詳しく説明します。なお、平日開催の講座は、旧地下金庫見学をセットにした夜間講座です(十八時三十分開始)。

③企画展(期間中常設、予約不要)・・・本店本館内に特設した展示室にて、日本銀行の役割・業務や日銀本店の歴史についてご紹介します。

※詳しい内容や時間、事前予約の方

法などについては日本銀行HPをご覧ください。

<http://www.boj.or.jp/>

【会場】日本銀行本店

(東京都中央区日本橋本石町)

【お問い合わせ先】

日本銀行情報サービス局

総務企画グループ

〇三―三二七―二五六八

**親子で楽しく学べる  
体験型イベント  
「金融教育フェスティバル」  
を全国三カ所で開催します**

▼金融広報中央委員会(事務局：日本銀行情報サービス局内)は、金融や経済の基礎を楽しく学べる体験型イベント「金融教育フェスティバル」を、今年度中に全国三カ所で開催します。

【開催の目的】

子供から大人まで幅広い年齢層の方々に、金融教育に関して興味を持ち、理解を深めていただく機会を提供することを目的として開催します。

【プログラム】

①暮らしに役立つ講演会

金融・経済に造詣の深い有識者を講師に迎え、金融知識や金融教育をテーマとする講演会を行います。

講師

〈東京会場〉

伊藤元重氏(東京大学大学院経済

学研究科教授)

住田裕子氏(弁護士)

〈京都会場〉

坂東眞理子氏(昭和女子大学学長)

和泉昭子氏(CFP®/生活経済

ジャーナリスト)

〈鹿児島会場〉

山田真哉氏(公認会計士・税理士)

対象：一般

②教員向けセミナー

教育現場での金融教育実践をテーマに、講話、実践報告、参加型ワークショップ等を行います。

対象：教員、教職を目指す大学生・

大学院生



東京会場 伊藤元重氏×住田裕子氏



鹿児島会場 山田真哉氏



京都会場 坂東眞理子氏×和泉昭子氏



## 編集後記

■このたび編集長に就任いたしました。ご挨拶を申し上げます前に、まず、東日本大震災で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。さて、私がこれまでに経験したことのある編集の仕事といえば、小学校時代のガリ版刷り学級新聞が唯一の事例であり、また、私が日本銀行において広報の仕事に携わるのは、30年にわたる銀行生活の中で初めてのことであります（もちろん、日本銀行におけるさまざまな仕事に携わるに当たっては、対外説明の重要性を意識してきたつもりではありますが）。ということで、弊誌について、従来に劣らない出来栄を維持していけるかどうか、とても不安です。ただ、弱音を吐いている間にも、次号の編集作業は確実に迫ってきます。ここは覚悟を決め、「誠実な広報誌作り」をモットーとして、頑張っていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。（鮎瀬）

■架橋100周年を迎えた日本橋をお祝いするため、今年は例年にも増して華やかなイベントが行われました。夏の風物詩となった日本橋「橋洗い」は、地域住民や地元商店街、企業などが参加して、持参したデッキブラシで橋をゴシゴシと洗い上げるイベントです。大人から子供まで約1,600名以上が一斉に橋を洗う風景は圧巻で、水にぬれても気にせず、笑顔とともに橋を一生懸命に洗うその姿には、日本橋への愛情を感じました。また、日本橋船着場では東西の歌舞伎役者を招き「双十郎河岸」記念碑の完成式典が華やかに行われました。江戸時代には五街道の起点として日本の中心であった日本橋。伝統ある地に架かるこの橋を渡るたび、かつてはここを行き交った先人に思いをはせ、感慨深い気持ちで一杯になりました。（MK）

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱っておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

([http://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2011年秋号  
編集・発行人 鮎瀬典夫  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

\*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。



©FUJITV KIDS

キャラクターショーに登場する「ガチャピン・ムック」

③親子のためのおかねの広場  
幅広い年代に人気の「ガチャピン・ムック」のステージショーなど、楽しく学べるイベントを行います。  
○キャラクターショー「ガチャピン・ムックとおかねのことを学ぼう」

④親子向けイベント  
おかねやものを大切にするこことを学べるイベントを行います。「忍たま乱太郎のスペシャルショータイム!!」(東京会場のみ)

○おかねの仕事体験「中央銀行業務体験」「カレー作りゲーム」(東京会場を除く)  
○おこづかいゲーム(東京会場のみ)  
○貯金箱作りコーナー、おかねクイズ、おかねについて学ぶコーナー  
対象：小学生・保護者

⑤協力団体講師等による金融教育セミナー  
当委員会の関係・協力団体の講師が、保険や資産運用、金融犯罪などをテーマに、セミナーを開催します。



©NHK・尼子騒兵衛・総合ビジョン

親子向けイベントに登場する「忍たま乱太郎」

このほか、金融教育に関する資料を提供するコーナーを設置します。  
【申し込み方法】原則予約制です。東京・京都会場は受け付け中、鹿児島会場は開催の約二カ月前より、インターネット、電話、FAX、郵送で受け付けます。詳しくは、公式サイトをご覧ください。  
<http://www.festival2011.jp/>  
【開催日程】東京(十月二十三日)、京都(十一月二十三日)、鹿児島(二〇一二年二月二十九日)